

アメリカ政府の援助・ララ物資 実は日系人による民間の援助だった

▽2005年4月16日、サンフランシスコの桜祭りで、在サンフランシスコ日本国総領事館は東京日本橋の呉服問屋・株式会社藤安相談役阿藤清七氏に対し総領事表彰を行った。それを遡ること12年、1987年5月16日にはサンフランシスコ市長が浅野七之助氏を表彰した。

▽浅野氏の表彰理由は「日系人への貢献、ララ物資の送付、日米親善への貢献」である。一方、阿藤清七氏への表彰理由は「1973年よりサンフランシスコ桜祭りに振袖の無償提供を行い、日本文化の紹介に貢献した」。名前に同じ「七」を付けた二人を結びつけたものは何か？。

▽敗戦後の日本は荒廃し文字通り貧困のどん底にあった。終戦の翌年、1946年にはララ物資による救援が開始された。これは1952年まで続けられ、当時のお金で400億円相当、1400万人、国民の6人に1人が恩恵を受けたとされる。1947年にはガリオアの援助が、1948年には国際NGOのケア援助、1949年にユニセフによる援助、同じくエロア援助が始まった。

▽なかでも米国の軍事予算によるガリオア・エロア(占領地域救済資金、占領地救済復興資金)は当時の総額で18億ドル、現在の金額では12兆円という膨大なスケールで実施され、戦後の日本経済復興の決め手となったのだった(うち5億ドルは有償で政府は完済済み)。

▽日本人にとってどれほど勇気づけられたかわからない「ララ物資」だが、当時の日本人はこれがアメリカ政府の援助だと思っていたのである(検閲によって事実が伏せられていた)。ところが、事実は日本の窮状を知った日系一世の浅野七之助氏が日系人に呼びかけてはじまった純粋な日系人による民間の援助だったと、朝日新聞のコラム「明日への話題」が後になって伝えた。

▽このコラムでその事実を知った阿藤清七氏は感激し、日系人の援助に感謝してはじめてのが、サンフランシスコ桜祭り(日系人のお祭り)への参加と桜の女王への振袖の贈呈だった。戦後お世話になった日系人への恩返し気持で、これはつい最近まで続けられたのだった。

▽ちなみに戦後間もない1953年に導入された世界銀行の低金利の融資は合計8億6千万ドルに及び、東海道新幹線、東名高速道路、黒四ダムなどインフラ整備に使われ、日本はその後驚異的な経済発展を遂げることになる。この世銀ローンを日本が完済したのは1990年7月の事だ。僅か18年前まで日本はローンを返済していたのである。現在は世界第2位の抛出国である。

カテゴリ: [コラム](#) フォルダ: [指定なし](#)   

[コメント\(3\)](#)

タグ: [ララ物資](#) [日系人](#) [支援](#) [世界銀行](#)

コメント(3)

コメントを書く場合はログインしてください。



Commented by [故郷求めてさん](#)

2008/08/29 21:59

エントリーと無関係な話題で失礼します。

すみません、阿比留記者のところで騒ぎ、煽った男です。記者のご決断のお陰で正常化するものと確信しておりますが、私が騒ぎ立てることに眉をしかめた方も多かったと思います。とりあえずお詫びとお礼の行脚をいたします。



Commented by [故郷求めてさん](#)

2008/08/29 22:39

ララ物資のことはやせ我慢さんから教わりました。歴史を学ぶことは生きるためにとても大切なことだと思います。貴重な情報をありがとうございます。



Commented by [花うさぎさん](#)

2008/08/29 23:02

To [故郷求めてさん](#)

ようこそ。

>私が騒ぎ立てることに眉をしかめた方も多かったと思います。

日系人の支援だったララ物資:イザ!

そんな印象は別にはないですよ。むしろ良いタイミングで阿比留さんに削除を促してくれたと思ってます(^^)。